



公共交通につよいまちづくりを目指して - 上信電鉄・佐野のわたし駅 -

高崎市 都市整備部 都市施設課

「上信線新駅設置事業」

高齢化が進む中、高齢者の方やお身体に障がいを持った方など、交通弱者の皆さまにも、安全にそして快適に移動できる手段の確保が必要不可欠になってきています。鉄道をはじめとする公共交通ネットワークの強化は今後のまちづくりにおいて非常に重要な課題のひとつとなっています。

こうした中、平成24年に地域の皆さまから公共交通の強化、特に新駅の設置について多くの声をいただきました。佐野地域は鉄道の線路はあるものの駅が無く、隣接の南高崎駅へは国道17号を横断する必要があり、下仁田方面へ向かうには烏川を渡り根小屋駅まで行く必要がありました。いわゆる公共交通の空白地域となっていました。

そこで鉄道事業者である上信電鉄(株)と協力し、新駅設置にむけた協議を進めることとなりました。

「佐野のわたし駅」は高崎市の行政としての「目標」と、地域の皆さんの「願い」が合わさって生まれた新駅なのです。

位置図



平面図



位置

高崎市上佐野町167-3番地
高崎駅から2.2km(所要時間約6分)

駅施設

プラットホーム 延長45m、幅員3m
ホームシェルター 2基
待合室 1基

駅前広場

送迎自動車用ロータリー 1200㎡
多目的トイレ 1棟
自転車駐輪場 3基(32台)

開業日

平成26年12月22日

「地域に愛される駅づくり」

駅の設置にあわせ、未永く地域の皆さまや利用者に愛され親しまれるようにと、駅名や駅施設のデザインを県内の小中学生を対象に募集を行いました。多数の応募の中から「佐野のわたし駅」が採用されました。新駅がある佐野の地域には昔、烏川の対岸・根小屋地域とを結び「渡し舟」があったという歴史が残されています。このことから、地域に伝わる昔話になぞらえて、地域と地域、人と人を結び、現代の「渡し」の役割を担う駅となるよう「佐野のわたし駅」としました。駅施設のデザインについても、地域にゆかりのある謡曲「鉢木」の主人公・佐野源佐衛門常世のデザインなどが採用されそれぞれ現地に再現されています。皆さんも是非ご利用下さい。



渡し舟をイメージした入場門